城南新聞
第32号
昭和44年10月25日
発行
金沢市立城南中学校
新聞編集部
印刷所 KK 山越

後期生徒会役員きまる

城南中の卑弥呼 徳野さえ子会長

後期生徒会の役員選挙は接戦だった。わずか7票の差で2年生の徳野さえ子に決定。校長先生から「しっかり頑張って下さい」とはげまされ、個性的な7人のメンバーはチームワークをがっちりくんで城南生徒会という舞台に登場した。

良い学校をわるくしないでねネ 向かって右から

会計 石橋 信彦
会計 浦 加津子
副会長 森永 晶子
会長 徳野さえ子
副会長 桝野 正博
書記 田中 健一
書記 畠山 雅子

①なぜ当選できたと思いますか。

徳野 女子で会長に立候補したからだと思います。

森永 私は、やはり、応援演説の仕方が一生懸命やってくれたからだと思います。

桝野 わかりません。自分でも当選できたのがふしぎなくらいです。

②感想はどうですか。

桝野 うれしいです。

田中 思いがけないことなのでびっくりしました。

徳野 最初はうれしいだけでしたが、後になると少し心配になりました。

畠山 やはりうれしいの一言につきますが後からになって、責任の重大さにちょっと心配になりました。

森永 私も最初おどろくばかりでしたけれど徳野さんを助けてがんばりたいと思います。

石橋 突然のことで夢にも思っていませんでした。

浦 立候補してなかったのに、執行部に任命されて少し責任を感じています。

③当選してやりたいことはなんですか。

田中 みなさんをひきつけるような生徒会にしたいと思います。

桝野 まとまった学校にしたいと思います。

徳野 楽しい学校にしたいと思います。

畠山 やはり、みなさんに興味をもってもらわなければいけないので、そのためにクラスに呼びかけ傍聴人をふやしたいと思います。

森永 月間目標を徹底させたいと思います。

浦 みんなの興味をひくような生徒会にしていきたいと思います。

石崎 朝自習を徹底させたいと思います。

④具体的にいうとどういうことですか。

田中 やはり月間目標を徹底させて、規律をつくりあげたいと思います。

徳野 フォークダンスなどをして男女の仲を楽しくしたいと思います。

畠山 生徒会に対してのアンケートや疑問、不満などを聞き入れみなさんの親しみやすい生徒会にしたいと思います。

森永 私は、色々な点検や注意を学校全体にいきわたらせようと思います。

桝野 規則を守らせるために、破ってから「知らなかったから」ということをなくそうと思います。

石橋 投書箱を利用してもらいたいので呼びかけようと思います。

⑤七人の間で大切なことは何だと思いますか。

田中 やはりチームワークだと思います。

桝野 同じです。

徳野 協力だと思います。

畠山 同じです。

森永 同じです。

浦 協力、団結につきると思います。

⑥二年生で、しかも女子の会長を、どう思いますか。

石橋 邪馬台国の卑弥呼みたいでいいと思います。しかし、顔が悪いと思います。（笑い）

桝野 一生懸命やればそれでいいと思います。

田中 男女平等なのだし、年に関係ないと思います。

畠山 今まであまり例がなかったけれど徳野さんの意志で私達、みんなをひきつけてほしいと思います。

森永 徳野さんは勇気もありますし、実行力にも富んでいるので大丈夫だと思います。

浦 例年にないことなので初めは少し心配でしたけれど、実行力があれば、それで年や性別に関係ないと思います。

これでインタビューを終わります。

どうもありがとうございました。

生徒信条
親切で礼儀正しくしよう

バトンタッチ
前期生徒会長から

前期生徒会。ぼくたちが執行部としてスタートした当時は、あれもやろう、これもやろうと思いをめぐらしたはずでした。ベルマーク委員会設立、月間目標の徹底、傍聴席。でも今、前期をふり返ってみて、いったいどれだけのことができただろうか？もちろん、ぼくたちの間に失敗はなかったとはいえない。むしろ失敗だらけだったにちがいない。だからこそ、生徒の皆さんに助けてもらえた、と思うことがあった。

ぼくたちが今、後期生徒会に希望することは、

一、生徒会や生徒会活動を活発にして生徒一人一人にもっと関心をもってもらうこと。

二、前期活発でなかったベルマーク収集をもっと活発にしてもらいたい。（ベルマーク委員会の設立）

三、月間目標の徹底。

四、傍聴人をもっとふやしていくこと。

この四つはごくあたりまえのことだけども、今の城南中学校は、そのあたりまえのことが徹底していないのだと思う。

最後に後期生徒会に、今後の活躍を期待したい。

役山孝志

みのりの秋によせて

学校長 福浦 耕介

虫の声すだく秋となった。実りの秋だ、心も身体も健康で明るくすがすがしい、さわやかな秋のようでありたい。

九月二十日の連合体育大会、十月九日の秋の運動会、中体連主催の各種新人大会、楽しく愉快に、せいいっぱい頑張ろう。

秋こそ、スポーツの秋であると同時に勉強の秋だ、「灯火親しむころ」主体的学習もみのり多い秋でありたい。みんな心してつとめよう。九月上旬本校を訪れた兵庫県の三名の先生方が自主、協力解決の有機的にはたらく学習の場をごらんになった。

主体性は、楽に能率的に考え、すぐ結論ばかりを追うのでなく、つまり、学級の王者は、知的諸記憶のすぐれた人、というだけでなく、学習を通して、友人（級の）の人間関係が育ち、一つには学ぶ喜び、さらに学習を通し、物の考え方や物の処理の仕方を学ぶことが大切なものです。

さて、ちょっと理論的になりますが、みなさんの学習において考えてみてほしいことは、

1、学習の方法に合理性があるかどうか。

2、知識が断片的で系統性に欠けていないかどうか裏づけや発展性が考えられているか。

3、内容が多すぎて自主的な調査や討議ができないのではないか（教科によるが）

4、参考書に依存し、自分で考える努力をおこたることはないか。

5、図書や資料の活用が足りないようなことはないか。

このようなことを、いま一度ふりかえってみませんか。

つぎに人間関係について思うことは、友達や交際する人は一部分に限られることなく、だれとでも話し協力する人でありたい。

これからみなさんは、国際社会において経済や文化スポーツ、外交において、多くの人々と交流して行かねばならない。日本人がややもすると視野がせまいといわれますが、このような反省上にたって、品性のある高い教養と、豊かな情操を身につけてほしいものだ。

夢と希望でいっぱい
全国入賞の細井和則君

ころころの、サツマイモに赤色のペンキを塗りたくったような小男。この男こそ去る八月八日大阪で行なわれた、全国中学生選抜水泳大会で、みごと高飛び込み四位に入賞した細井和則君である。

メシよりもH_2Oが好き

さっそく新聞部員が、インタビューをし表彰状をみせてもらった。彼の顔よりも、はるかに大きいものであり、

石川 城南中学校
種目 男子高飛び込み 第四位
記録 四八・〇六

とあった。

細井君は低い鼻をヒクヒクさせて、インタビューに答えてくれた。

問 入賞した時どんな気持ちでしたか。

細井 いい気持ち。とってもうれしかった。

問 飛び込みは、いつから始めましたか。

細井 一年の時一度やったけどやめて二年生になってから本格的にはじめた。

問 練習はどの位しましたか。

細井 毎日、市営プールでした。

問 大会はどこであったのですか。

細井 大阪プールで……。

問 石川県から何人出場しましたか。

細井 11人（競泳含めてだよ）

問 始めから自信がありましたか。

細井 あったよ。高飛び込みは。でも、板飛び込みは自信がなかった。

問 体の調子はどうでしたか。おなかの調子は大丈夫でしたか。

細井 調子よかった。バーツグン。

問 他の県から来た選手を見てどう思いましたか。

細井 強そうだなあと思った。

問 飛び込み台にたった時ドキドキしましたか。

細井 高飛び10m板飛び3m。

問 えーと校舎の三階位の高さかな。

司 ウワーッ スゴイ！

問 やめようと思ったことがありますか。

細井 うん。いつも先生にしかられてばっかりおったたさけ。

問 これからも、続けていきますか。

細井 もちろん続けていく。

問 オリンピックに出場したいですか。

細井 出たいと思う。

司 今日はどうもありがとう。

細井 ……

連合体育大会

第二十二回金沢市中学校連合体育大会は、三十日午前九時四十分から市営陸上競技場で行なわれた。市内十八校から一万人余りの生徒が参加してフォークダンス、体操、棒たおしなどの演技を競った。昨年にひき続き、個人競技はリレーだけになったが、団体競技がふえて全員で楽しむ大会となった。競技に先だって開会式があり、高岡町中学校ブラスバンドにのって三年男子約二千人が入場行進。国旗、中教研旗、市旗を掲揚のあと南俊郎高岡町中学校長が「りっぱな演技を期待します」と短いあいさつ。前田市教育長が激励のことば、江川市助役、滝尾市議会副議長の祝辞で幕をあけた。プログラムの一番初めは三年生男子の「中学生体操」、日焼けした健康そうな肌の色にトレーニングシャツがたいへん鮮かで躍動する姿は、人間が精密機械になったようだった。このあとひき続いて、綱引き、フォークダンス、きれいな花笠をもっての花笠音頭などが次々に行なわれ大会雰囲気も最高潮となった。

花笠ガールたち

ここで、大会の花、学校対抗リレーがバラエティーにとんだ応援合戦の中で行なわれた。その中でもひときわ目立ったのは、二・三年の女子による花笠の応援だった。インスタントで井口先生が汗をかきかき一生懸命に応援の技術指導したもので、他校の生徒から「きれいだ、きれいだ」と目を見はらさせていた。このようにして、約一万人の若人が全員で楽しんだ連合体育大会は「オレンジ色のファンタジー」で大会の幕を閉じた。

本校の成績は次の通り

二年男子 一位（岩木・柏野・山形・福井）50・4
女子 二位（村井・北川・和田・俵）
三年男子 一位（野崎・田中・越川・出口）1・41・4
女子 一位（森・牧・辻川・和田森）

応援の技術指導する井口先生

おめでとう 中道みつ江さん

市中学お話の会第一位

10月18日金石中で市中学お話の会が開かれた。本校から三年の中道みつ江さんが「心のふれあい」と題して修学旅行の時の体験をのべた。富士を見た感激や、友だちと汗をしぼって外人に話しかけ、言葉が通じた時の喜びを述べたものであるが見事に第一位を獲得。中道さんは「北川先生の御指導のおかげです」とうれしそうにお礼をのべた。

愛のパトロール
校風委員会だより

後期は我々校風委員が、ハッスルする季節だ。冬になると、気温と反比例して遅刻をするタンチの数が上昇する、我々一同は全校集会の時に、顔の良し悪しにかかわらず常習犯を壇の上にのっけよう。今から楽しみにしている。どんな顔がみられるか。次のシグナルは朝自習だ校風委員会では「愛のパトロール」を計画した。すなわち静かに自習しているかどうかクラスをパトロールし「よく遊べよく遊べ」のクラスには、ライオンの如くほえてやろうというもの。「コラッ」とどなれば、我々の胸の中もスカッとさわやかになるし、城南中生の成績もメキメキ上昇するから一石二鳥です。

風林火山

九月九日の昼さがり、窓がガタガタ音をたて、学校全体がグラリッとゆれた。「地震だ」その声と同時にみんなは、廊下へ飛び出した。避難するのかと思ったら、窓からワイワイ高見の見物。その間、わずか、五・六秒。

その後しばらくしてから運動場へ避難するように放送があった。みんなは、ソレ授業がさほれると大喜び。運動場に出てから校舎をふりかえってみると、あわてて教室から出たことを物語る、窓のあいているクラスがいくつかある。

一秒を争って避難する場合ならともかく、じゅうぶんに、余裕があったのにもかかわらず、戸じまりをしようという、ゆとりのある生徒がいなかった。

風林火山という言葉がある。

ときこと風の如く、しずかなること林の如く、しんりゃく火の如く、動かざること山の如し、という。

こんな時にこそ、かみしめて味わってみたいものだ。

生徒による生徒の校内運動会

10月14日秋空の下で生徒にもる生徒の校内運動会が行われた。ブラスバンドの元気な演奏にのって国旗、校旗が風にひるがえった。若さに満ちあふれた演技が次々と展開。まず二年女子の「お手伝いさん」これはかっぽう着をつけ手ぬぐいをかぶり、ほうきバケツ、ちりとりなどを持って走るのだが、選手の中にはそそっかしいのがいて決勝点できびしい取り調べにより次次と失格させられていた。それに続いてマラソンである。コースは城南中の裏道を通り、大桑町から再び、城南中を犀川の間の道路を通ってもどる通称三角コース約2.5kmの距離である。三年生は初めからベースが速くすぐに先頭の3人が見えてきた。3年は道越君、2年は土井君、1年は嘉門君が優勝した。一年女子の「さくらおどり」は各クラスがそれぞれ考案したダンスで屋上から見ればもっと美しいのではないかと思われた。運動会ではおなじみの棒たおしでは赤白いりまじってふんだりけったりの乱戦模様。赤が攻め守りにやや優勢で旗をかっぱらうことが出来た。忘れてならないことがある。運動場の片隅での役員の活躍だ。「一身同体」では一年生の目かくしを手つだっていた。又、巨体を軽々と動かして働らく道具係がいた。赤白の旗をかついで、走りまわる体育委員達等、運動会はこの裏の力があってスムーズに進行したのである。昼食後に

まけてたまるか

フォークダンスがあった。2年生の男子が一番うまい？　という評判だった。3年女子の「女の威力」ではまさしくその名の通り、先生方も選手とまじって「女の威力」を発揮したゲームだった。障害レースでは馬のごとく飛びこえたり、地面をはったりして、応援席の方ではまことに楽しいものだった。2年男子の組体操はきびきびした動作でピラミッドを作っていた。注目をあびたのは、PTA、職員の大玉ころがしである。日頃きびしい先生方もむじゃきな笑顔で大玉をころがしていた。楽しい笑いが絶えなかった。最後に城南中の今後の発展を願って道越PTA会長さんによる「万歳三唱」が城南中の青い空に響きわたった。

【成績は次の通り】

○クラス対抗リレー
一年―一位五組二位2組三位1組
二年―一位6組二位5組三位1組
三年―一位7組二位3組三位6組

○学年別
一年―一位2組二位1組三位5組
二年―一位5組三位4組三位1組
三年―一位7組二位2組三位3組

○ブロック別
一位5組、二位2組三位1組

先生は忙しいけど楽しい職業です
短大教生に聞く

10月6日　金沢女子短期大学から教育実習生が24名来校した。平尾杉下両記者はさっそくインタヴューに出かけた。

記者　生徒についてどう思いますか。

教生A　明朗活発！

教生B　自由でのびのびしているけれどあらっぽい。昼休みの時間がモノスゴイ」（笑）

教生C　甘えているのかしら？

教生D　過剰保護が多いのね

教生E　そういえば保健室へ行きすぎネ。ちょっとけがをしてもすぐ保健室へ走る。

教生F　八潮先生に恋してるのかしら？（笑）

記者　この学校の先生についてどう思いますか。

教生A　とても教育熱心です。

記者　先生という仕事をどう思いますか。

教生B　とても忙しい。

教生C　むずかしい仕事ネ。

教生D　たのしそうな職業です。

記者　この学校についてどう思いますか。

教生A　空気がきれいで環境がよい学校です。

教生B　ゴミ箱のこわれつばなしが目立ちました。

教生E　のびのびしすぎて物忘れをする生徒が多い。

教生F　委員会活動があまり活発じゃありませんね。

記者　どんな気持でこの学校に来ましたか。

教生A　ただ一生懸命やりたいと思ってきました。

教生B　いい想い出になると思います。

きょうだけ文化人になったみたいダ

加賀っ子　能楽堂へ行く

九月十一日、三年生全員は、日本で東京と金沢だけに伝えられる遺産、能楽を観賞した。能楽堂というので、大きな立派な寺院かと思って行ったが、外見はふつうの家と変わりはなかった。しかし、中に入ると、すばらしい広間があった。天井が高い広間の奥に、大きな松の絵がかかれた四角い舞台があった。能は、室町時代に観阿弥、世阿弥父子が大成したという。いよいよ長い歴史を持つ能がはじまった。社会の時間、「能」というものを習った。その時はつまらない、かた苦しい、歴史上の人物が見るもので私達とはおよそ縁のないものと思っていた。しずまりかえった広間に澄みきった鼓の音が、ポン、ポンとひびいた。厳粛なものだった。私達は、織田信長の親類になったつもりで聞いた。日本の芸術だと思うと、尊敬しなければなるまい。次は狂言だ。能よりもわかりやすい言葉で、当時の庶民の生活を取材したものだ。広間には、爆笑のうずまき起こった。全く、能と対象的なものだった。舞台の中をかける姿には、こっけいというより言葉はない。観能が終って、足は、電気がつたわったかのようにビリビリしびれた。

―クラスの人気者―
モーレツごんじ

我二年七組の名物の一つにゴンジがいる。ゴンジといっても怪獣ではない。まぎれもなく人間「関信次」のことである。このゴンジの顔をチラッと見るとグレンタイのような印象をうける。次に、ジッと見ると変な顔だなと思ってくる。それもそのはず、彼の顔の二キビの数ときたら数えきれない。まるで月面のクレーターそっくりである。また、先生が「おまえ先生のとこ向いとるがかいや」といわれることがある。自分自身向いているつもりだが、お目めがあっちゃこっちゃになっている。めったにない天然記念物である。しかし彼は実にいい男だ。彼は授業中でもバカデカイ声を出してみんなを笑わせている。ゴンジはお人好しだ。進んで園芸係をひきうけモクモクと働いている。頼もしい奴だ。クラブは陸上部、あまりパッとしていないが、校内陸上競技大会で二〇〇mを走り三位、水泳大会では一五〇m自由型で一位になるなどそのモーレツぶりを発揮している。又彼は新聞少年としても名高い。毎日夕刊を配って、町を歩いているマジメ人間なのだ。ゴンジの好きな女性は、「チョイトお前さん」とか言って、グイグイひっぱっていってくれるのが好きなのだそうだ。我れと思わん人はどうぞ立候補して下さい。

ある日の学活
Léts dance

終礼の時、クラスの会長が「あすの学活は何をしますか」といった。ぼくらは「ソフト」「サッカー」「バスケット」と叫んだ。その時、女の子が手を上げて「フォークダンス」といった。よくまあみんなことが言えたもんだ。いよいよ採決だ。男子は「ソフト」「サッカー」「バスケット」にそれぞれ手を挙げた。ところが、女子が圧倒的にフォークダンスに手を挙げたからたまらない。ぼくは多数決のおそろしさを知った。「ではあすの学活はフォークダンスにします会長はきっぱりといってしまった。男子は顔色を変えて「本当に決ったんかあ」と口々に叫んだ。ぼくらは中学生になって一度もフォークダンスをしたことがない。女子が面白そうにゲラゲラ笑うのをぼくらはポカアンと見ていた。翌日、先生が「フォークダンスはこのクラスだけでなく2年生全体でやることにする」と言った。このとしになって女の子と手をつなぐなんてテレくさいなあ男子一同の胸の中は落着かなく運命の学活をむかえた。体育館に集った2年生一同は行進曲にあわせて円を描きはじめた。誰も女の子と手をつなぐ勇気のある奴はいない。一番先頭の男が女の先生にイッチニィイッチニィと手をひっぱられてくさっている。三重の円が出来あがった。――神様、あわれなぼくらを助けたまえ…胸がドキンドキンした。音楽が鳴りだした。ぼくらは目をつぶって相手の手をとり、何も考えずにステップをふみだした。軽やかな調子が出てきてリズムにのっているうちに、女の子とダンスをするなんてちっともおそろしくないことを知った。ぼくたちは調子よく、ダンスを続けた。突然音楽がとまった。壇上のおそろしくきびしい先生の視線の方向を見て「アリヤー」と思った。外側の列がいつの間にか男子だけ女子だけのパートナーに変って列は乱れ、皆ふぐのようにふくれっ面をしている「外側の列は、すわれえ―」と先生の声、「中の二列のダンスを見ていなさい」

ぼくたちはすまして音楽に調子を合わせ始めた。先生の声が続いた「ダンスは楽しんでするもの。叱られながらするものではない。男子と女子がこうして踊っているのはちっともいやらしくないはず。むしろ清潔な感じがするでしょう」

ぼくらは「ほんとにその通りだ」と思った。手をつなげない奴は助平根性があるからだ。フォークダンスをする意義は、クラスが一つにまとまるだけでなく二年生全体が仲よくしましょうというところに目的があったのだ。終りを告げるベルが鳴った。皆は踊りたくてたまらなくなっていた。先生は「三分間だけ踊ることにしよう」と言った。このようにフォークダンスを楽しむことではないだろうか、城南中生よレッツダンス！

読書の秋
次郎物語をよんで
―愛という宝石を知る―

小学生の時、図書館で、「次郎物語」という本を読んだ。それを、もう一度読んで、書いてみた。

幼い時から、親のもとをはなれて、学校の小使いさんの家にやられる次郎。おばあさんに兄や弟と分けへだてされ、色々といじめられる次郎。金持ちの自家より、貧乏な小使いのうばを慕って何度もにげ帰る次郎。そして、自分の子供以上に、可愛がり、夫が次郎をたたくと、ほうきをもって夫を追いまわすうば。

あの純情な、正直いちずな次郎が、どうして祖母や母に可愛がられないのだろうか。うばもあれほど可愛がり、父もあれほど愛し、やさしくきびしく、次郎を導いているのに、ぼくにはどうしてもわからなかった。

幼い頃の次郎と、成長してからの次郎を比べて、ゆっくり読みかえすと、六年の図書館で、読んだ感激とは、全く別な感激がそこにあった。どうしてもわからなかった。どうしても解けなかった謎が、ようやく解けたような気がした。愛だ！おばあさんや兄弟のために、いじっぱりになった次郎。それを解きほぐし、正しい方向へ導いたのは、うばと父、正木のおじおば、先生らの暖かい愛情である。この愛がなかったらどうであったろう。例のそろばん事件。新しいげた事件。これで兄弟とだんだん仲良くなった。次郎は愛されるだけでなく、好きな人に愛されるだけでなく、きらいな人をも愛する事を覚えてきたのだ。あれほど意地悪したおばあさんをも、慈悲の心で愛するようになった。ぼくだったら、早く死んでくれたらいいと思っただろう。次郎は祖母をかわいそうな人だ。まことの愛を知らなかった人だ、と思うようになったのである。その意志の強さの前に、祖母も母もだんだん頭をたれてくるのだ。

次郎の一生をつらぬいている精神の一つは、次郎の男らしい度胸と、優しい心だ。橋の上のけんか、高校の入学式の時のけんか、うばへの優しい手紙。母が死ぬ時、母に食べてもらいたい一心で、ほんの少しの肉を買ってくる次郎。この物語りは、普通日常の少年の生活をえがいたものだが、しかし、何か強く心をひきつける。考える事より先にけんかをしてしまう次郎、純情な次郎。ぼくは、こんな、次郎に魅力を感じる。愛があったからこそ次郎が愛を知っていたからこそ、うばや父に愛され、母や祖母や兄弟からも愛されるようになったのではないだろうか。

この本を読んで、愛は、人間の素晴しい宝石だと思った。

（一の五　西村邦之）

力作ならぶ
夏休み作品展

去る九月四・五・六日の三日間、集会室で、夏休み作品展が行なわれた。

会場は休み時間や、放課後を利用し、連日たくさんの人がおとずれた。

作品はどれも、たっぷりと時間のかかるものであった。

技術・家庭の作品では、石川県の発明工夫展にも入選した、一年生の塗師岡君の作品「幼児飛び出し報知機」が人々の目をひいた。これは、彼がまる五日かかって作った力作で、お金もだいぶかかっているそうだ。この作品のしくみは、幼児が板に乗ると、走ってくる自動車に停車信号を送るという装置である。お金も、四百五十円も使ったそうだが、作品もりっぱなものだ。

来年なにを作ろうかナ

国語では、大きなかけじくに、大きくのびのびと書いてある習字が、廊下を歩く人の目をとめた。

また、英語では、一年生の中に、毎日、英語の日記を書きつづけた人もいた。本人に聞くと、わからないことばは、全部英辞典で調べたそうだ。すごい馬力！

ほかにも、和英で、夏のカレンダーや、家庭科では女の子のヒップがのっかる美しいクッション、理科では毎日かかさず観測した気象観測など、夏休みらしい作品が多く見られた。

おねがいしまアーす
ベルマーク委員から

最近、そうじをしたかしないかわからないうちに、マルテへ飛んでいく男女がいる。それは決してそうじをさぼりにいくのではない。文化委員が仕事の一つであるベルマークを数えに行くのである。現在、学校のベルマークの倉庫には昨年からのベルマークがギッシリとつまっている。それをベルマークの委員は毎日かぞえに行くのだ。現在、集まったベルマークは一万点を下らない。ベーマーク委員はそれを少しでも学校のお役にたてようと必死なのである。そういうベルマーク委員にみなさんの理解と協力をもとめる。